

アレルギー事情 研究者らが紹介

中央でフォーラム

化学物質が子どもの健康に及ぼす影響を調べる環境省の「エコチル調査」で、山梨と長野の調査拠点となる甲信ユニットセンターは5日、中央市の山梨大玉穂キャンパスで「エコチルやまなしフォーラム2011秋」を開いた。

同大医学部免疫学講座

教授の中尾篤人さんが「アレルギーとは何か?」、同小児科学講座助教の杉山剛さんが「スギ花粉王国山梨に育つ子どもたちのアレルギー事情―山梨県は花粉症有病率日本一!」と題して講演した。

杉山さんはぜんそく患者が少ない一方で、花粉症や口腔アレルギーの患者が多いといった山梨のアレルギーに関する特徴を挙げ、「この山梨の謎を解くことがアレルギーに関する大発見につながるかもしれない。それにはより多くの方に、エコチルに参加してもらおう」とがはじめの一步」と話した。

県内のエコチル調査の妊婦の募集は甲府、中央、山梨、甲州、富士吉田の5市で実施していて、3年間で4488人の参加が目標。10月31日現在、1028人が参加し、264人が出産している。